

No.
59

冠詞と「て・に・を・は」の類似性

日本人の話す英語が、“日本人の英語”だと一番よくわかるのは、冠詞(a/anとthe)の使い方によってでしょう。(以下、“a/an”は、まとめて“a”で表します)

英語の冠詞と比較してしばしば問題になるのは、日本語の助詞のむずかしさです。たしかに、

「～の」「～で」

もやっかいです。ただ、これは英語の前置詞に相当するものです。前置詞(第3章)も簡単ではありませんが、冠詞ほどではありません。

“自分にはないもの”を理解することの
“むずかしさ”と“おもしろさ”

といった意味で、「て」「に」「を」「は」と冠詞は同じですね。



私たち教師は学生が書いた英文を見て、「冠詞の用法に注意せよ」と言いますが、明らかな誤りはともかく、いくら注意しても間違ふことがあります。だからこそ、冠詞は英語の本質だと言えます。

冠詞は英語で一番大切な言葉である

と自覚したことはありますか。

冠詞は“名詞の前に何となくあるもの”として今まで接してきたのであれば、これを機会に、まずは冠詞に注目してもらふことができればと思います。

No.
60

「冠詞をつける」という言い方

「名詞に冠詞をつける」という言い方をすることがよくありますね。実際、私もこのような言い回しを使うことがありますが、この言い方は、冠詞が名詞の付属品であって、名詞の脇役であるかのような印象を与えかねません。この「冠詞をつける」という言い方を一度考え直しておくのがよさそうです。

むしろ、

冠詞が主役で、名詞は脇役

と考えるべきでしょう。つまり、

最終的に、冠詞が名詞の意味を決める

と言うのが、より正確です。なぜそう言えるのかは、この後の項で順にお話ししていきますから楽しみにしてください。

これからは、冠詞の重要性を自分に言い聞かせ、冠詞にもっと注目しましょう。

ここでは、冠詞を軽視すると見逃してしまう、“the + 形容詞”という用法についてふれておきます。

冠詞と名詞の深い結びつきから、“the + 形容詞”の2語で、その形容詞を含む名詞の意味にすることができます。“名詞”ですから、「～もの(者)」「～こと」と訳せばいいですね。

たとえば、次のようなものがあります。

- ▶ the young ⇨ 「若い者たち = 若者層」
- ▶ the rich ⇨ 「裕福な者たち = 富裕層」
- ▶ the unexpected ⇨ 「予想しないこと、予期せぬこと」